彙報

平成九年度論文題目

荒木　亮司　萩原朔太郎論　―朔太郎の「田舎と都会」―

石川　裕恵　萬葉集における防人歌の意義

板井亜希子　金子みすずの詩について

上馬場泰造　芥川龍之介論
―「歯車」にみられる不安や死―

宇野木勝彦　「仮名手本忠臣蔵」に於ける作劇法

大塚　里美　藤原定家
―その歌論から導きだされる和歌観―

岡原　宣仁　「今昔物語集」の研究
―「今昔」と昔話のかかわりについて

緒方　久哉　中原中也論
―中原の創作詩に見られる「空」の様式美―

小野　真一　「三四郎」について
―夏目漱石の生涯と「三四郎」考―

加藤　聡　「パニック」と「裸の王様」
―開高健の文学についての考察

岸田　涼子　希望表現の一形式
―「まほし」と「たし」を中心に

近藤　文　「源氏物語」の研究

近藤　竜也　秋成怪異小説における一考察
―「雨月物語」の女たち

近藤　光輝　夏目漱石の「草枕」について

後藤　英輔　枕草子における「おかし」からみれる清少納言の美意識

櫻井　陽子　梶井基次郎論　―病と死―

佐田　知子　国語における語義の変容の一形式
―「うそを吹く」を中心に―

佐藤　美和　類義語の変容過程
―「あらたし」と「あたらし」を中心に―

千崎　恒徳　国語語彙の史的変遷
―「おどろく」を中心に―

田浦千恵子　終助詞「かし」の構文機能

高城　哲子　中原中也論
―「子」としての中也「親」としての中也

田渕　収　寺山修司について　―寺山修司競馬エッセイとその背景に関する一考察
手嶋　美穂　永井路子論
徳永　房幹　北杜夫の文学に現れる精神性
富永　昌博　森鴎外論
中神　清志　田山花袋の文学について
中島千香子　金子光晴論　―何故反戦詩人と呼ばれるか―
原田こず恵　福岡県筑豊地方の方言の変容
日田　一美　方言国語史研究　―「なおす」を中心に―
平井　雪江　堀辰雄論
平田　智子　蜻蛉日記の研究
藤淵　有史　詩人千家元麿
馬氷　千絵　国語語彙の史的変容
―「さうざうし」を中心に
松下　護　種子島方言の社会言語学的研究
三倉　英史　高村光太郎論
―「智恵子抄」に於ける光太郎の愛
村上　和幸　太宰治論
―太宰文学に於ける「人間失格」の位置付け

山崎謙一郎　福岡・大分に於ける新方言の生成過程
吉岡　一彦　近・現代文学作品で考える人間とは
吉田　正太　北原白秋と童謡の関係について
吉田　朋裕　草枕論　―草枕の探訪その自然・人物―
林　文琪　現代日本語における推量助動詞について
渡辺　和臣　若山牧水　―沼津時代を中心に考える―
渡邊　理江　「銀河鉄道の夜」論
―作品に見られる賢治の死生観―
朴　素瑩　現代日本語の条件表現について
―「バ」「タラ」「ナラ」「ト」を中心に―
陳　曄明　西鶴と中国文化
景　レナ　夏目漱石の「坊ちゃん」について
金　潤蘭　川端康成の「雪国」について
李　永貴　石川琢木論
松岡　直樹　子規の短歌革新　―花の表現を中心に―
金　志勲　「鼻」とその関連説話を中心に

〈学会〉

日　時　十一月十八日（水）　午後一時より

場　所　32号館500番大講義室

【研究発表】

・室町時代物語にみる継子譚の特徴
　―「落窪物語」から「おちくぼのさうし」へ―　冨永昭子

・万葉集作者未詳歌の旅について
　―旅の表現の意味するもの―　石川裕恵

【講演】

与謝蕪村の世界　田中道雄　先生

◇国文学特殊研究（比較文学Ⅰ）海外研修

オランダ（アムステルダム）／フランス（パリ）／イギリス（ロンドン）／香港

◇第二次オリエンテーション

五月十三日　湯布院散策

田中道雄先生